



# ありあけ

佐賀大学農学部  
同窓会報

No.35

発行日 2025年 1月 1日

発行 佐賀大学農学部同窓会

TEL 0952-23-1253 FAX 0952-25-5700

編集 会報編集委員会

住所 佐賀市本庄町1佐賀大学内

E-mail [dousoukai@safudai.jp](mailto:dousoukai@safudai.jp)

ホームページ <http://sadaai.jp/alumni/nougakudousoukai/>

## 目次

### 巻頭言

「未来につながる佐賀農業の実現に向けて」  
県農林水産部長 島内利昭…1

### 同窓会情報

農学部と農学部同窓生との意見交換会  
鐘ヶ江直雅(同窓会長)…3

### 農学部情報

学生への就職支援と令和5年度進路動向  
准教授 上野大介…4

研究室紹介 生命機能科学コース 食品機能開発分野  
准教授 井上奈穂…5

キクイモ～園芸振興奨励賞を授与されました  
松本雄一講師…6

インターンシップ体験記  
小山智大…7  
草葉大河…8

### OB・OGからのメッセージ

今を生きて未来を創る仕事  
佐賀県立高志館高等学校 中野和佳子…9

### 会員の広場

元気な農学部 OB 教員が農学部と農学部長を応援する！～される？  
小島孝之(元農学部長)…9

どんどん広がれ！佐大同窓会フェスの輪!!  
松永 章(編集長)…10

”団結の育種学教室”～穴井先生の受賞をお祝いしました！  
松永章(編集長)…10

山菜の栽培方法と食べ方講座③ヤブカンゾウ  
田中欽二…11

同窓会・クラス会とあわせて…  
大学構内見学会はいかがでしょう？  
鐘ヶ江直雅(同窓会長)…12

先輩と後輩のつながり同門会  
荒木清史(同窓会副会長)…12

青春寮歌祭初参加  
田平嘉文…13

73A 農園会・鹿児島で開催  
西村希志子…15

### 支部だより

教職員支部総会開催  
松尾信寿…15

### 編集後記

松永章(編集長)…16

### 協賛広告

JAグループ佐賀 … 16

株式会社 森光商店 … 16

福岡大同青果株式会社 … 17

一般社団法人 プラントヘルスケア研究所 … 17

## 巻頭言



## 未来につながる佐賀農業実現に向けて

佐賀県 農林水産部 部長 島内利昭  
(H1 農業土木)

本年度から、佐賀県農林水産部長を拝命いたしました平成元年農業土木学科卒の島内です。私の方から、現在の本県農業の現状や力を入れ

ている主な取組について御紹介いたします。会員の皆様には、今後とも、県のこうした取組に対し、御支援・御協力いただけると幸いです。

## 一. 佐賀農業の現状

佐賀県の農業は、これまで、整備の進んだ水田や共同利用施設を活用し、米麦や園芸品目を組み合わせた生産性の高い水田農業を展開してきた結果、1986年（昭和61年）以降、耕地利用率は37年連続日本一を継続しています。

米・麦・大豆等を組み合わせた水田フル活用により、二条大麦の生産量は日本一を継続するなど、県内需要量をはるかに超える農畜産物の生産により、食料自給率は西日本1位、全国有数の食料供給産地として、我が国の食料自給率に大きく貢献しています。

しかしながら、本県の農業産出額は、昭和59年には1,865億円であったものが、令和4年には1,307億円まで減少してします。

## 二. 「さが園芸888運動」について

こうした中、佐賀県農業の持続的な発展を図るためには、農家所得の確保・向上が見込める園芸農業の一層の振興に取り組むことが必要であることから、『園芸作物を生産・販売する農家が経営力を「磨き」、所得を「稼ぎ」、それを目指し新たな担い手が確保され、産地が活性化する』といった、次世代に「つながる」好循環の創出を目指し、令和元年度から、生産者をはじめ、市町やJA等関係団体と連携して「さが園芸888運動」を展開しています。

この運動は令和10年度までとなっていますが、具体的には、

- ・新規就農者や栽培面積の増加を目的としたトレーニングファームや園芸団地の整備
- ・生産・販売対策として、「いちごさん」や「にじゅうまる」といった県独自ブランドの育成に注力
- ・中古ハウスの利活用の推進など、規模拡大する農家への支援強化

などの取組を進めた結果、現在、成果が徐々に見えてきているところです。

## 三. 結び

佐賀県にとって、農業は地域に根差した大事な産業です、農業が元気になることが佐賀の元気につながります。

佐賀農業の未来を切り拓く「稼ぐ農業」「つながる農業」の実現に向け、高い収益性が期待される園芸農業へ軸足を移しつつ、若者や女性が集い、将来に希望を持って活躍する、未来につながる佐賀農業の実践を目指してまいります。

## トピックス： 第26回全国農業担い手サミット in さが

テーマ：「磨き 高め 未来へ継なげる 日本農業」～集え！担い手 維新の地 佐賀へ～

○1月22日（水）

農業担い手サミット in さが 公式HP ⇒



全体会（会場：SAGA アリーナ）

優良経営体表彰、事例発表、基調講演 等

地域交流会（佐城、三神、唐津・玄海、伊万里・有田、杵島、藤津）

○1月23日（水）

現地研修会 県内25コース（先進農家や農業関連施設、観光施設、直売所などを視察）

## 同窓会活動

### 佐賀大学農学部と農学部同窓会との意見交換会(懇談会)

令和6年11月22日(金)に、学生会館内のかさぎホールで開催しました。

大学からは、鈴木学部長以下7人、同窓会からは6人が参加しました。

(出席者表のとおり)

冒頭に、私から「大学が進める地域活性化のための人材育成」をテーマに意見交換を行いたいという趣旨と、地域社会への貢献のための研究をされている大学に同窓会として何か協力できることはないかというお話しをしました。

続いて、鈴木学部長から、農学部の教育・研究の環境が人的にも充実してきていることや、コスメティックサイエンス学環の設置構想をはじめ新たな研究の取り組みなどが紹介され、大学の研究に対する評価が高いこと、大学院への進学希望が多いことなどが紹介されました。

意見交換の中では、教職員支部から農業高校を支える教員の人材育成を進めてほしいとの意見のほか、県内への就職が進むことを希望する意見がありました。

これに対し、今の学生はネットなどを入り口として就職活動を行うことが多く、使命感ややりがいなどを感じてもらうことが重要で、先生からの紹介で就職先を決めることはないとお話もありました。

同窓会からは、その対応として正規の授業である1年生必修のアグリキャリアデザイン講座で毎年各部会からお話する機会をいただいておりますが、就職活動が本格化する3年生にも仕事の醍醐味を伝える機会を考慮してもらえないかとのお願いをしました。

また、大学院生を農業高校の非常勤講師として任用できないかとの意見もあり、大学からは、学校推薦で入学する学生に、教員免許取得を勧めるのはどうかとの助言もいただきました。

そのほか、地域農業の課題として、作物の高温

耐性や地下水の水質改善対策の研究への要望もありました。

その後、懇談会へと移行し、「悠々知酔」を酌み交わしながら、大学での研究内容や同窓会活動の内容、同窓会員の各職域での課題等について深くお話しすることができました。

今後も大学との連携を取りながら、同窓会活動の幅を広げていければと思います。

農学部同窓会会長 鐘ヶ江直雅  
(S56年 農化・生化卒)

※意見交換会出席者

佐賀大学農学部	佐賀大学農学部同窓会
学部長様、副学部長3名様、食資源環境科学コース長様、生命機能科学コース長様、事務長様 計7名	同窓会長、副会長2名、県庁支部長、教職員支部長、農協連支部長 計6名



意見交換会の様子



鈴木学部長のお話



懇親会の様子



# 農学部情報

## 学生への就職支援と最近の進路先傾向

(食資源環境科学コース・生産環境化学分野)

准教授 上野大介

昨年度から、農学部就職委員を務めております、食資源環境科学コースの上野です。

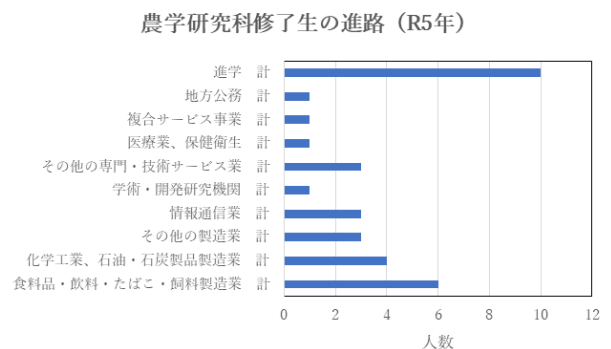
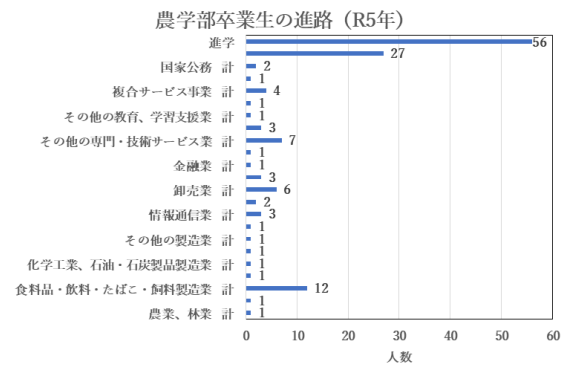
令和6年度は、一色先生との2人体制で、農学部、農学研究科および先進健康科学研究科（農学系）に所属する学生の就職支援を行っております。農学部学生は、キャリアセンターによる全学対象の就職支援に加え、農学部後援会のご支援のもと、学部独自の「農学部就職講座」も受講できるようになっています。昨年度と同様、(株)リクルート、(株)マイナビ、ジョブカフェ SAGA の3社様にご協力いただいています。コロナ禍に見舞われた令和2年度からオンライン開催となっていましたが、今年度はほとんどの講座を対面で行っています。前期は主としてインターンシップ対策、後期はエントリーシート(ES)・履歴書対策や面接対策を行いました。後期に行われた内定者報告会では、内定を獲得した学部学生と修士学生に登壇していただき、学生生活、研究室生活も含め、就職活動の実際について体験を語ってもらい、次年度就職活動を本格化させる後輩たちに良きアドバイスを送ってもらいました。

最近の進路先の傾向につきましては、大学院進学および公務系が増加していることが挙げられます(表参照、令和5年度の進路状況、大学院は農学研究科のみ)。昨年度は56名が修士課程に進学しており、本学農学研究科に加え令和元年の改組で新設された先進健康科学研究科にも進学しています。今年度の採用選考では、オンラインから対面での面接が復活し、昨年度よりも内定が早く出る傾向にありました。農学部・大学院では現在、9割の学生が進路を確定している状況になっています。令和7年卒の大卒求人倍率は上昇傾向

ですので、就職活動を継続している学生は健康にも留意しつつ諦めずに頑張ってもらいたいと思います。

本年度は、地元民間企業のみならず、佐賀県や熊本県、長崎県などの地方公共団体や公社などの外郭団体から本学部への就職説明会開催依頼が多かった年でした。便利なオンライン説明会の普及も1つの要因かと思えます。また、複数県の御担当者から農業高校教員の確保が難しくなっているとお声をお寄せいただきました。これらは農学部学生に対する採用意欲の高まりと受け取っています。佐賀県および熊本県の農政職に関する説明会は農学部若手OBによるオンラインあるいは対面によってそれぞれ行われ、在学学生も参加して熱心に情報を取得していました。令和7年度に就職活動する学生の皆さんには、気力を充実させ、しっかり準備をして就職戦線に立ち向かってもらいたいと思います。農学部OBの皆様からも、現役・卒業生の就職活動につきまして是非ともサポートいただけますと幸甚です。

今後ともよろしくご厚意申し上げます。



資料:「佐賀大学農学部・大学院農学研究科概 2023」



# 研究室紹介

## 生命機能科学コース 食品機能開発学分野

准教授 井上奈穂

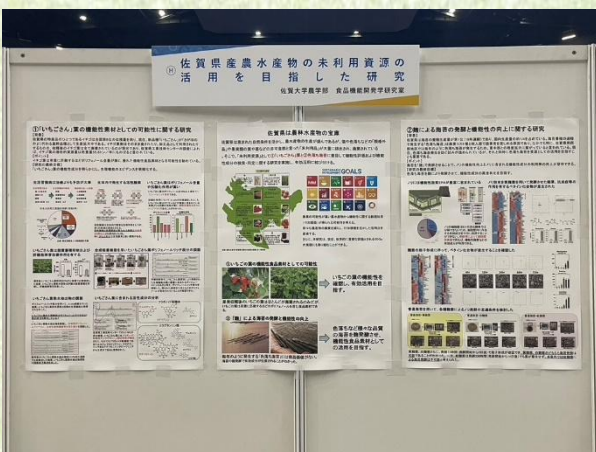
佐賀大学農学部同窓会の皆様には日頃から多大なるご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

私は佐賀大学農学部応用生物科学科化学系（現在の生命機能科学コース）の出身です。3年次後期に食品栄養化学分野に配属されて以降、柳田晃良先生、永尾晃治先生にご指導いただきながら、佐賀大学大学院農学研究科、鹿児島大学大学院連合農学研究科、日本学術振興会特別研究員の計10年（学生9年間、社会人1年間）を佐賀大学で過ごしました。その後、順天堂大学医学部や東北大学大学院農学研究科、山形大学農学部などを経て、コロナ禍だった中の2020年7月1日に生命機能科学コースの食品機能開発学分野の准教授として、母校佐賀大学に戻って参りました。

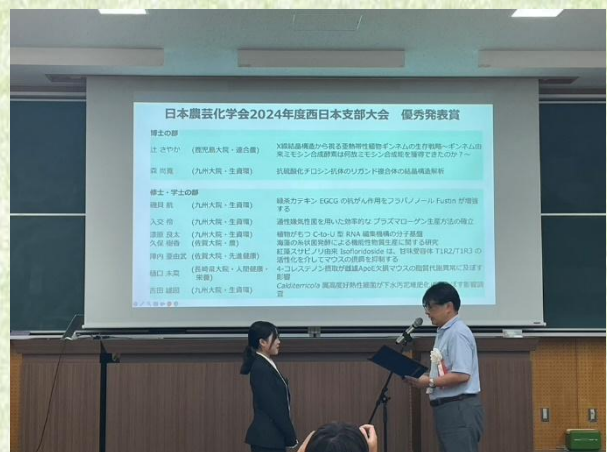
佐賀県では恵まれた自然条件を活かし、農水産物の生産が盛んに行われています。一方で、傷や色落ちなどの「規格外品」や果実類の葉や茎などの非可食部と言った「未利用品」が大量に排出、廃棄されているという現状もあります。食品機能開発学分野では、「地域農水産物」およびこれら農水産物由来の「未利用資源」に着目し、「植物由来機能性成分による病態発症改善機能に関する研究」というテーマの

元、*in vitro*系および*in vivo*系の実験系を用いて、植物性食品に含まれる生理活性物質などの機能性分子の探索や評価、肥満や脂質異常症などの生活習慣病の予防・改善に対する影響などについて研究を行っています。現在、佐賀県と連携した「TSUNAGIプロジェクト」に採択されており、佐賀県特産のイチゴの葉や、近年、海苔養殖で問題となっている色落ち海苔などの機能性や利活用に関する研究を進めています。地域農水産物、そのなかでも特に廃棄の可能性が高い農水産物由来を未利用資源として利用し、それらから新規知見（付加価値）が得られる可能性を考えることで、様々な農水産物の廃棄の減少や、付加価値を活かした活用法の提案にも取り組んでいきたいと考えています。これらの研究は世界的に重要な課題とされている「持続可能な開発目標（SDGs）」の実現にも繋がると考えています。

佐賀大学での教員生活も5年目を迎えました。現在、食品機能開発学分野には修士1年生1名、4年生3名、3年生3名が在籍しています。このメンバーで、地域貢献に資する研究により一層精進していきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



SAGA TSUNAGI コンベンションで報告しました



海苔に関する研究で、当分野の大学院生が優秀発表賞を受賞しました





## キクイモの栽培・加工技術の確立と産地化への貢献 により園芸振興奨励賞を授与されました

農学部附属アグリ創生教育研究センター 機能性植物資源学分野 松本雄一

キクイモは血糖値の上昇抑制や整腸作用などの効果から機能性野菜として利用が期待されています。しかしながら、消費者の認知度が低いことや、栽培・加工技術が確立していないことなど、生産・普及を進める上で多くの課題がありました。これらの課題を解決するため、産学官連携組織を設立し、生産から加工・調理など様々な分野での研究を重ね、さらにその成果を佐賀県や福岡県などの産地・実需者に対して普及を図りました。併せて、消費者向けのイベントや企業向けの講演など認知度向上に向けた取組も多数行い、その結果として福岡県内を中心に生産・消費量が大幅に拡大していきました。現在、福岡県は日本一の生産面積を誇るキクイモ産地に発展し、共同研究による開発商品も多数開発・販売されています。これらの成果から、この度公益財団法人園芸振興松島財団より 2023 年度園芸振興奨励賞を授与いただきました。

本財団は、青果物の生産から流通経営にいたる調査、研究、技術開発及びその普及に対する助成、奨励、表彰等の事業を行うことにより、学術の振興と、国民の希求する青果物の安定供給を図り、明るい豊かな社会の形成に寄与することを目的とした団体で、園芸振興奨励賞はわが国における青果物の生産、流通および消費に関する開発・普及などの活動で、これまでに社会的成果を上げたもの、ないし今後期待されるものに授与されるものです。昭和 50 年の第 1 回から今回までの受賞者は、自治体職員や生産団体、流通・食品関連事業者、大学教員など多岐に渡りますが、佐賀県内からの受賞者はおらず、今回が県内初の受賞となりました。九州各県でもこれまでの受賞者は 3 名で、今回は 30 年ぶり 4 人目となります。

キクイモの消費は認知度の向上とともに年々拡大を続けており、さらなる商品開発が期待されています。現在は、食品だけでなく化粧品素材としての研究・商品開発や広報活動も行っており、産地・実需者・消費者の期待に応えられるような成果に繋げていきたいと思っています。



アグリ創出フェア 2024 での開発商品の紹介

# インターンシップ体験記



生物科学コース 植物病制御学分野 3年 草葉大河



私は佐賀県茶業試験場のインターンシップに2日間参加しました。お茶に強い関心を持っている私にとって、現場での作業は非常に有意義な経験となりました。1日目は、はじめに試験場の概要や研究課題について伺い、茶業全体の発展における役割を知ることができました。茶畑見学では、品種や系統ごとの特性を活かした栽培技術が研究されており、聞き慣れない品種に興味を引かれました。主な業務である主要病害虫の発生予察調査では、茶畑に赴き病害虫の個体数を調査しました。発生傾向を把握するためにはデータ収集が重要であり、また、現場での作業が病害虫防除の基礎となることを実感しました。2日目に行った官能評価実習では、湯温や浸出時間の差による味の変化を体感しました。その後の成分分析では、HPLCや茶成分分析計を使用し、茶の味わいや成分の特徴を数値として捉え品質改良や製品開発に活かしていることを知りました。職員の方々はどんな質問にも丁寧に答えてくださり、茶業に関する知識の奥深さと研究の幅広さに感銘を受けました。今回のインターンシップは、試験場の業務を通じて研究職の役割や研究課題についての理解を深める貴重な機会となりました。



生物資源科学コース アグリ資源開発分野 修士1年 小山智大

私は佐賀大学卒業後、地元長崎県の県職員として農家支援や農業の活性化に貢献したいと考えています。諫早農業高校では果樹を専攻し、大学でのビワ研究の経験から果樹試験場での仕事への理解を深めたいと思い、5日間のインターンシップに参加しました。

各研究室のカリキュラムに基づき、ウンシュウミカンの日焼けや害虫調査、自動散布機 XAG R150 の実演、ビワの縮伐や白紋羽病の温水治療などの実務を体験しました。特に印象に残った内容は、西海市のビワ農家視察および報告会への参加です。農家の方々が栽培者ならではの鋭い視点で質問や意見を述べる姿から、専門的な知識と経験の重要性を強く実感しました。

この経験を通じて、広い視野を持ち、現場の課題解決に向けて努力を重ねる必要性を学びました。また、果樹試験場や県職員の仕事について詳しく知る機会を得たことは、今後の目標設定に大きな影響を与えました。インターンシップを通じて、自身の将来への方向性を一層明確にできたと感じています。



インターンシップ中の様子



# OB・OGからのメッセージ



## 今を生きて未来を創る仕事

佐賀県立高志館高等学校 中野和佳子  
(H27 生物環境科学科 地圏環境学)

幼少より学生時代まで、人付き合いが苦手で友人を中々作れず、勉強嫌いで人前に立つことも避けてきた、そんな私がこうして今教壇に立つことなど、当時を知る人は誰も予想できなかったと思います。

大学卒業が迫る中、私は特に夢も目標もなく、就職は正直自分ひとり生活していける仕事ならなんでもいい、と思っていました。そんな中、当時の担当教授に進路相談したところ、「では学校の先生になればいい」とアドバイスを下さいました。できない苦労が多かった人間のほうが、子供たちのサポートはし易いのではということで、そこから教員を目指しました。教授はいつもとても温かく接して下さり、親身になって私たち学生のことを考えてくださる方でした。自分に自信のなかった私が、前向きに、教員になったら人の役に立てるかもしれないと捉えきれようになったのは、この大学時代の教授のお陰です。

はじめは理科の教員を目指していましたが、たまたま講義で訪れた農業高校で、理論だけでなく実習を通して体験的に学ぶ様子や、普通学校とはまた違う生き生きとした生徒に魅力を感じ、農業の教員を目指すことにしました。それから講師・民間就職など紆余曲折を経て正式採用となりました。若い頃は教科指導のみならず人としての在り方等、多くの先生方からご指導・ご鞭撻いただきながら今に至ります。

“ブラック校則”“多様性”等々、私が学生の頃は

顕在化していなかった課題が今は様々にあり、学校現場に対して不安や取っ付き難さを感じる方もいらっしゃるかと思います。しかしこの経験年数になって、課題や困難をともに経験し、そこから忍耐力や問題解決能力、引いては人間性を養い、自身の幸せを実現するという教育の根底は何も変わっていないと感じるようになりました。当時の担当教授や職場の先輩の先生方、そして何より一番はたった3年間の中で急速に変化していく生徒たちとの出会いによって、この真実に気付けたと思っています。人の人生の考え方の基盤を作るこの仕事は、とても興味深くやりがいがあると感じるようになりました。「教育の根底」と表現しましたが、仕事のスタンスなども、実は同じようなものではないでしょうか。

同窓生の皆さんの中で、もし昔の私のように目標が持てず、自身の将来を思い描けない方がいらっしゃいましたら、朗報です。生徒と共に肩を並べて変化・成長していく人はとても教



教壇の前で、はいポーズ



師向きです。子供という成長の塊と日々向き合うことで自身も成長させてもらえる教師の仕事に適性アリ、かもしれません。職業選択の一つ

に、「教師」を入れてみませんか？

最後になりましたが、同窓生の皆様の今後のご活躍を心より願っております。

## 会員のた場

### 元気な農学部OB教員が農学部と農学部長を応援する！～される？

毎年農学部OB教員の会を開催しているが、今回も15名の参加で賑やかな夕食・懇談会を開くことができホッとしている。まず、初めに、鈴木学部長の農学部が益々元気に発展されている現況説明があり、我々OB教員を逆に元気づけてくれた。あとは、年寄り順に現況を報告し合う。元学長佐古先生(88歳) 棚田を維持しながら元気な赤字農業の話から、次の年寄りは？ 現役時代の研究テーマとその成果を社会に還元と頑張っている人。現役教官の時と変わらない研究の継続を百姓に徹しながら、集落の世話役もしながら栄養、機能性に富んだ野菜など新品種開発で実践、現役大島副学長はもちろん佐賀大学のために奮闘中である。退職しても佐賀大学や私立大学で、講義、指導で大活躍、現役時代にも負けない活躍の人。健康維持に目覚め、自転車に、テニスに力を入れている人、いずれもまだ片足は、大学時代の研究の延長や大学講師など兼務しながらの社会的な活動をし、充実している老後ならぬ老前生活を楽しんでいる人が多い。初めて町内会に入会し、町内会の主催する活動に参加して楽しんでいる人、全てが新しい人生で、新鮮であり、楽しい

小島孝之(元農学部長・(株)オブティム監査役)生活感が伺えた。

懇親会前は、「来年はもう出席できるかわからないぞ」と言いながら懇親会も終盤になると「来年も楽しみにしている」との言があちこちから……。あと少しで100歳だよと言って、元気に芸術活動などを行っているOB(渡邊潔一小島)など・・・など参加が難しいOBは、参加の誘いをしなかったが、この会の雰囲気は報告する予定である。すでに石橋さん～近藤さんなど連絡を取り合ったとの話も聞いている。

筆者も10月23、24日のマリンメッセでのスマートアグリに関する講演や展示会企画に関わった(日本能率協会主催、2500名ほどの集客)。12月5～6日は日本監査協会の主催で、鹿児島で、エネオスの喜入石油基地や日本ガス工場など視察。冥土の土産とばかりに、機会あるごとにいろんな工場視察と研修に参加している。

元気なOB先生が身近におられると、我々の目標ともなるし、連絡も取り合って、もっと楽しい元気なOB教員の会として、佐賀大学、農学部、農学部長、現役教員たちの現在の情報を知り、これからも応援を継続していきたい。



元気な農学部OB教員集合！！



農学部の活発な現状を紹介される鈴木学部長！

## どんどん広がれ！佐大同窓会フェスの輪!!

松永章(編集長/S59 農学・育種)

11.9(土)佐賀駅前交流広場で同窓会フェスを全学同窓会で開催しました。同窓会のイベントはライフスタイルの多様化で人集めが難しく、ご高齢の先輩から卒業したての若者や現役の学生さんの幅広い交流をしたくてもなかなか難しかったが、昨年から開かれているフェスでは、○よさこいサークル ○お笑いサークル ○チアリーディング ○ボランティアサークル ○医学レクチャー などの楽しいステージイベントや、卒業生の自転車旅行家で作家の西野旅峰さんのトークショー など大いに盛り上がりました。

また、ステージ外のイベントでも卒業生の皆さんの農産物販売や焼き物販売、いろいろな飲食店なども大賑わいでした。

現役の学生さんもより参加しやすい工夫がされており、受付でお買い物券の配布など優待されていて若者からご年配のみなさんまで大変楽しい雰囲気でした。ずっと続けていきたいと思います。

我が農学部同窓会もおコメや切り花など農産物販売頑張りましたよ～



佐賀駅前同窓会フェスの様子

## “団結の育種学教室”～穴井先生の受賞をお祝いしました！

松永章(編集長/S59 農学・育種)

11月9日に穴井豊昭先生(現九州大学教授)の日本育種学会賞受賞のお祝い会を開催しました。

受賞は、マスコミなどでも取り上げられた高オレイン酸大豆(佐賀大HO1号)の開発やその手法が評価されたものです。この研究は、穴井先生が先代の高木胖先生から引き継がれて通算40年かけた研究テーマで、育成されたこの品種は

- 遺伝子組み換えでない世界初の高オレイン酸品種
  - 豆乳など加工した際に大豆独特の青臭さがなくスッキリした風味になる
- という特徴とのことです。

育種学教室は、平日頃から連帯意識が何となく強く、毎年正月3日は先生・先輩を囲んだ「新年会」(コロナ流行期は一時中断しますが・・・)が恒例行事で、この祝賀会も受賞された令和2年以



降、コロナ収束のタイミングを見ながら、発起人を中心に「早よう、せんば～」と焦がっておりましたが、ついに開催となったところです。

上は昭和36年卒から、若い人は令和4年卒まで総勢約40名で大変賑やかな祝賀会になりました。

これからも、先生・先輩・後輩のつながりを大事にしながら、現在の育種学教室の渡邊啓史先生や現役学生のみなさんといっしょに頑張っていこうと思います。



お祝いの花束贈呈



育種学教室集合写真

## 山菜の栽培方法と食べ方講座 ③ヤブカンゾウ(藪萱草/別名:ワスレグサ)

田中欽二 (S39 農学・保護)

多年草で花期7~8月、1日花で色は黄赤色で昼間だけ開く、中国原産で有史以前に渡来したものとされている。<sup>⑩</sup>

「万葉集」で歌われていた「わすれぐさ」は、現在のヤブカンゾウである。佐賀県では絶滅危惧種と言われているが、里山では繁殖力は旺盛である。

新芽はくせがなく、いろいろの調理法で食される。萱草の蕾(つぼみ)は、蒸して乾燥させたものが中国から輸入されており、「全針葉(中華料理の材料)」の名で販売されている。

花には鉄分が多く含まれているので、湯を通して酢漬けにして食すれば貧血症の人に喜ばれている。

<sup>⑩</sup>小説「秦の始皇帝(鄭飛石著)」のP245に方術士である徐福のことが書かれており、多分、徐福さんが穢れない童男・童女と一緒に渡来したときに多くの植物の中にヤブカンゾウも含まれて持ち込まれたものとも思われる。



ヤブカンゾウの花

7月下旬から8月に咲き出す



酢漬けした花

## 同窓会・クラス会とあわせて……大学構内見学会はいかがでしょうか？

鐘ヶ江直雅(会長/S56 農化・生)

同窓会開催に合わせて学内見学。9月30日(月)に佐賀市内で昭和38年農学部卒業の方々の同窓会が開催されました。

翌日に佐賀大学学内の見学にお誘いしたところ4名の方が参加されました。大学では産学交流プラザのリージョナル・イノベーションセンターシニアURAの平山氏から学生等のベンチャーへの支援や、地域企業などと連携した先進的な佐賀大学の研究の取り組みについて説明を受け、質問もされるなど興味深く聞かれていました。

また、美術館などをご覧いただき、様変わりした学校の風景の中に元の不知火寮などを懐かしんでおられました。

みなさまも、同窓会・クラス会のプラス・イベントとして久しぶりの構内散策をされてみてはいかがでしょうか？計画がありましたら、少し早めに同窓会役員などにご相談ください。



学内見学参加者の皆さん



同窓会出席の皆さん

## 先輩と後輩のつながり同門会

荒木清史(副会長/S54 農化・醗酵)

私が学んだ発酵生産学教室には同門会がある。会の発足は私が卒業時、当時の村田教授が発案され、初代教授の猿野教授が退官される時と併せて発足した。それ以来、現在までの40数年間、毎年3月の第1土曜、グラウンデはがくれ(当時、はがくれ荘)で開催(コロナ期を除き)されている。毎回、第1回卒業生(S44年卒)から現役の大学3年生までの多くの門下生が一堂に会し、なかなかの賑わいがある。毎年、現役学生が醸造に携わった「悠々知酔」(発売直前)が披露されるのも楽しみである。

現役の学生や大学院生には、実際の企業情報や各業界の生の情報・動向を把握することができ、民間企業や公務員など多くOBを通して働き方等を直に聞ける絶好の機会である。また、OBには現在の研究室の研究内容や大学の情報を入手し、若かったころの思い出や先輩・同輩・後輩との懇談は、翌日からの活力や生き方のもととなっている。同門会は先輩と後輩のつながりを持ついい機会となっている。

先日の「農学部と同窓会の交流会」の場で同門会について触れさせていただいた。出身教室を拠所に「先輩と後輩のつながり」の場は本当にありがたい。農学部の各研究教室に是非とも作っていただき、同窓生が今の佐賀大学農学部へ足を運べる機会があればと思っている。



ちなみに、以下は、歴代教授名と同門会長名である。

【微生物学研修室の歴代教授】

初代：猿野琳次郎先生 2代：村田 晃先生 3代：加藤富民雄先生 4代：神田康三先生  
5代：小林元太先生 6代：後藤正利先生

【同門会の歴代会長】初代：辻 秀人 2代：小金丸和義 3代：荒木清史 4代：原 信海



微生物学教室同門会：令和6年3月2日グランデはがくれにて

## 佐賀県 青春寮歌祭 初参加

田平嘉文 (S52 農業土木学科)



47年前の昭和52年に佐賀大学を卒業、東京の会社に40年勤務し退職後、平成29年に生まれ故郷小倉を通り越し唐津へ移住し約8年、先日、大学同学科のK君から連絡があり学科同期の同窓会を開くという。ちょっと待てよ、その日は大学4年間を過ごした不知火寮のOB会の予定日、どうしよう。

同期同窓会は卒業以来初参加、不知火寮OB会はコロナ禍で中止していたが5年ぶりの開催でその準備会に3回博多で参加し進めてきている。

まずは土曜日の佐賀市で開催する同期同窓会に出席、これは卒業以来なので同期の名前、顔の記憶も怪しく不安もあるが、それに勝る期待が高まる。

同じ佐賀県に住みながら唐津から佐賀市まで

行く機会が少ないので、この際早めに行って学生時代の学び舎を散策することに、50年前とは何もかもが様変わり、あの青髭、中華天奉があった通りは大きく広がりそれらの店は当然影も形もない。

大学の校舎は新しく建て替わり、メインストリートのラクウショウ並木が当時の面影を残している。

正門から入って突き当りに建っていた当時でも今にも崩れそうな不知火寮は記念の石碑を残すのみ、西側の門までひと回りすると、西門の傍には記憶に残る官舎、今晚同席される渡邊 潔 教授(当時)がここに住んでおられ、学生時代は時々お邪魔したことがある。半世紀の時の流れをこの目でひしひしとを感じる散策でした。

その足で、K君からは同窓会前に市内で佐賀県青春寮歌祭が開催されているとの情報で、会場を覗くことに。

大きな会場には北は北海道大学から南は鹿児

島大学までの 20 校以上の大学 OB が集まり賑やか、早速 K 君から声が掛かかり、ハッピーを着せられて舞台へ。

田中 宏先輩、昭和 30 年入学というから 85、6 歳か、張りのある声の巻頭言に続き「南に遠く」あの振り付けで舞台の上で歌って踊り回る。50 年ぶりだが自然に体が動いてしまう、歌い踊りながら当時の日々が脳裏に浮かぶ。

寮に寝起きしていた四年間は夜に気の合う仲間が集まって飲みかわすと決まって締めはストームという成り行き、私もストームで裸になり歌い踊ったものだ。

確か同期の渋谷君とは 1,2 年生の時は同数で最も回数が多かった記憶がある。夏は防火バケツの水も酔い覚まして気持ちよいが、真冬は凍るバケツの水を浴びて声も震え 6 棟ある寮の廊下を踊り回ったものだ、その後の厚生部の寮生が沸かした風呂の温かったこと汚かったこと、素面では入れないね。

青春寮歌祭では「南に遠く」の次に「楠の葉」を歌ったが、歌詞はなんとか覚えていたが腕振りには寮生時代にはなく、皆さんと合わずに舞台では浮いた感じになっていたかも。

不知火寮のストームは 6 寮を「南に遠く」を歌いながら（叫びながら）歌い終わり

中庭で「逍遙歌」をお互い肩を組んで歌うのが常で、この 2 曲を歌えない寮生はいなかっただろう。「楠の葉」は当時カラオケなどない寮生活では酒を飲みながら時折歌ったくらい、その後 みんなで歌おう で歌った「吉井浜の思ひ出」は私の好きな曲、酒の席でしばしば歌ったものだ。

この「吉井浜の思ひ出」も当時、水泳部歌と教えられ入寮時に寮歌練習で優しい先輩からしっ

かり教えられた。

私は学生時代にヨット部を創設し唐津で練習、競技をしていて、この歌詞は当地にびたりと当てはまり、合宿などで良く歌ったなつかしい曲。

次の曲目もあの有名な琵琶湖周航の歌、高校生の時に加藤登紀子が歌いその哀愁のただよメロディー、なんとか歌詞も覚えているので舞台に立ったついでに一緒に歌おうと心はやるが、客席から K 君が同期同窓会へ会場移動の手招きがあり、ちょっと後ろ髪を引かれる思いで盛り上がる会場を途中で去ることになりました。

身も心もあの日に戻り若き血に煮ゆる思いが戻ったひと時を過ごすことができました。心より感謝しています。

来年もお誘いいただければ、またあの日に帰ることができます。

この青春寮歌祭で巻頭言を発した田中 宏先輩とは短い時間ですがお話することができましたが、当時の不知火寮の資料をお持ちのことを伺いました。私も寮誌、寮祭の資料を在寮中またそれ以外も数冊手元にあり、昭和 57 年にその歴史を閉じた不知火寮の資料としてまとめて残せるものであればとの思いがあり、近々連絡を取ってみたいと思っています。

また、青春寮歌祭翌日は不知火寮 OB 会の 2 日目に参加、柳川で合流し同期、先輩方約 20 人と久々顔を合わせ、旧交を温め直しました。年長者は昭和 42 年入学、私が最も若く昭和 48 年入学ですので、田中先輩とはいくらか年代が離れていますが、寮歌祭と不知火寮 OB 会で接点が持てればと期待し、その旨も OB 会で伝えておきました。

来年の OB 会は 11 月に唐津で開催ということに決まりましたので、橋渡しができれば幸いです。



佐賀県青春寮歌祭の様子



## 「73A 農園会」を鹿児島で開催しました～

西村希志子 (S52 農学・植物病理)

73A 農園会は1973年(昭和48年)入学の農学科と園芸学科の合同同窓会で、2006年に第1回を開催以来2年おきに各地で会を重ねて来ました。2020年は鹿児島開催予定でしたが、コロナ禍で延期が続き、2024年10月にやっと開催の運びとなりました。

本会へは14名が参加。物故者の冥福を祈り黙祷を捧げた後、本会への参加表明第1号の森田昭氏(前農学部同窓会会長)の挨拶と乾杯、近況報告と続きました。佐賀大学で出会って51年経ち古稀も過ぎてしまいましたが、農園会常連・久しぶりの参加を問わず、顔を合わせると学生時代に気持ちは戻り、単位を取るのに苦労した講義や、

農園会ならではの農場実習のエピソード、また先生方との思い出が次々と溢れ出てきました。

短い時間でしたが、同級生にエネルギーをもらい、次回(2025年10月上旬 佐賀市予定)の再会を祈念して会を閉じました。



令和6年度73A農園会記念写真

## 支部だより

### 教職員支部総会開催

松尾信寿 (S63 園芸・果樹)

教職員支部では本年度の支部総会を令和6(2024)年12月14日(土)に佐賀市の「HOTEL グランデはがくれ」において開催しました。参加者は20名でした。

支部長挨拶で、より佐賀県の農業教員に占める教職員支部会員数の現状や教職課程(農業)を目指す学生を増やすための取り組み等についての話をしました。

それから、来賓として農学部同窓会長の鐘ヶ江様にご出席いただき、挨拶の中で農学部同窓会の活動状況や全学同窓会の状況等についてお話しいただきました。

懇親会は大いに盛り上がり、会員相互の親睦を深めることができました。

今後も定期的に集まって、学校時代の思い出や、教育現場の課題などを語り合ったり親睦を深めていきたいと考えています。



令和6年度教職員支部総会記念写真

## 編集後記

今年度から、編集長をさせていただいております松永です。今号が初めての同窓会誌の編集になりましたが、投稿者の皆様や編集担当の大坪正幸さん、川崎美紀さん、それから同窓会事務局の皆様の協力もいただき何とか、まとめることができました。厚くお礼申し上げます。

さて、今般の佐賀大学農学部同窓会の大きなテーマは「楽しい同窓会」への取組ということだと思っております。鐘ヶ江会長さんも前号の巻頭言で訴えておられましたように、現役の学生さんから、ご年配の諸先輩（私も相当年配ですが……）まで、何か楽しそう〜とイベントに参加したり、近況報告の便りが集まるような同窓会誌にしていきたいと思っておりますのでよろしくお祈りいたします。

皆様方の周りでの佐賀大学農学部関連の小さな集まりや、関係するできごとなどありましたら、同窓会事務局の方へお知らせください。写真と3行コメントでも構いませんので情報をいただきましたら、ホームページやFacebook、それにこの会報で紹介して、更に楽しい同窓会にしていきたいと考えておりますので、よろしくお祈りいたします。

松永章（編集長/S59 農学・育種）

## 協賛広告



**国消国産。**  
未来につなぐ。  
私たちの食と農。

**国産の農産物を食べよう。**

**JAグループは、「国消国産※」を呼びかけています。**

※ 「国民が必要として消費する食料は、できるだけその国で生産する」という考え方。



**JAグループ佐賀**

JA佐賀中央会  
佐賀市栄町3番32号 Tel.0-952-25-5115



*Aiming for evidence-making that is appreciated by Japanese farmers and trusted by researchers around the world*


 一般社団法人  
**プラントヘルスケア研究所**  
*Think globally, start immediately, and act locally for plant healthcare*

代表理事 田代暢哉 (S54 卒 農学・病理)  
840-0051 佐賀市田代 1-2-12  
Mail tashirongreen12@gmail.com





## 青果をとおして 健やかな暮らしを支えていく



福岡市中央卸売市場



福岡大同青果株式会社

代表取締役社長 丸小野 光 正 (S 52卒)

常勤監査役 草 場 昭 夫 (S 57卒)

〒813-0019 福岡市東区みなと香椎3丁目1番1-204号 TEL.(092)235-8950(代表) <https://fdydo.co.jp>

藤井重隆(課長) (H 8卒)

村井裕樹(係長) (H 8卒)

中村春華(係長) (H 28卒)

上野純弥(係長) (H 28卒) (院 H 30卒)

西田雄輝(係長) (R 2卒) (院 R 4卒)

樽水雄揮 (R5卒)

伊藤千夏 (R6卒)



*Grain & Pet Care Communication*

# 株式会社 森光商店

〒841-8611 佐賀県鳥栖市藤木町字若桜9-7

PHONE.0942-85-1125(代) FAX.0942-83-8868

ホームページ <http://www.morimitsu.co.jp>